

## 編集後記

『過労死防止学会誌』第2号を皆様にお届けします。

今号には、21編の論考を掲載しています。そのうち10編は、昨年9月に行われた第7回大会報告者のうち、共通論題と特別シンポジウムの報告者の方々に、大会での報告と会場における議論を踏まえて、改めて執筆いただいた論考です。また、分科会報告者の方々にも論文を募り、投稿していただきました。さらに、広く会員からの原稿募集をおこない、編集委員会での査読を経て掲載しております。なお、イム・サンヒョク氏からのハングル原稿は、会員の脇田滋氏に翻訳をしていただきました。

昨年度の創刊号(第1号)の発行経緯については、前号の編集後記に詳述しましたが、前号では、事前の準備に余裕がなく、学会誌としてどのように編集していくのかも分からず、印刷・製本業者への依頼、発送方法など、常任幹事の皆様に相談し、また縁を頼って精通した出版の方々に教えを請い、やっとのことで冊子が出来上がりました。さらに発刊後も、出来上がった冊子に対して、様々な方から色々な助言をいただきました。

今号では、常任幹事会のもとに編集委員会(準備会)を設置し、新たな編集体制で作業を行いました。特に、ネット上に版下を置き、共に相談しながら校正などができ、知恵を出し合い細かなところまで点検できることは、とても助かりました。第1号より少しは充実した冊子をつくることができたと考えております。それぞれ多忙であるにもかかわらず、執筆にご協力いただいた皆さんに感謝を申し上げます。

今後、この学会誌をどのように育てていくか、いくつかの要点をここに示します。

第一に、書き手をもっと増やすことです。大会での報告者に事後に論考を書いていただくことは、これまで通りです。さらに、会員からの論文投稿を募っていくことです。本学会は、研究者だけでなく、過労死被災者とその家族、医師、弁護士、活動家、ジャーナリスト、学生など多様な会員から構成されている点に特徴があり、通常の学術研究者集団からなるピュアな学術学会とは性格が異なります。それゆえに、「研究論文」や「研究ノート」として掲載する際には、本学会の性格に適した「査読」の基準を創っていく必要があると考えています。また、「その他」として、会員から提供されるさまざまな情報や意見なども掲載し、情報の共有化を進めていくことが重要です。

第二に、編集体制のことで。来年度は正式に編集委員会を立ち上げ、新たな編集体制により充実した学会誌にする予定です。

第三に、新たな企画を取り上げることです。まずは通常の学会誌が掲載している書評欄の設置です。過労死問題や過労死防止に関する本を取り上げて、紹介から批評まで行う欄です。それに関係しますが、文献情報も有益です。さらに新聞記事・雑誌記事の情報は記事名だけでも有益なものになります。次に、過労死防止をめぐる年間動向情報です。関係する政策や行政の動き、過労死防止運動・集会など、また様々なメディア情報、トピックスなどの情報を掲載すれば、この1年間で何があったのか、知ることが出来ます。

これらの要点のすべてをすぐさま行うことは、到底不可能です。編集体制を整えながら、一歩一歩可能なところから進めていけばいいと思います。

この冊子を読めば過労死防止関連の概要が分かる、また、いつでも知りたい情報が掲載されている冊子である、というのがこの学会誌が目標とすべき一つだと思っています。

今後も、会員の皆様からのご協力を得ながら、より良い学会誌にしていく所存です。

2022年3月1日

編集委員 高田好章